

多読学習の状況と効果について

樟蔭中学校・高等学校英語科常勤講師 八木岳彦

1. はじめに

昨年度の「樟蔭学園英語教育センターフォーラム第四号」でも発表した通り、本校では英語の多読学習を行っている。本校で多読学習の取り組みが始まって、4年目が終わろうとしている。そこで、今回のフォーラムではこれまでの本校の多読学習の現状報告だけでなく、多読学習の効果についても考察を行う。

2. 多読学習の状況

本校では、高校1年生（児童教育コース・健康栄養コース・進学コース）から高校3年生（高校1年生と同じコース）で、週に一回に授業時間内にM-Readerを活用して多読学習を行っている。学習者向けの **graded readers** やネイティブの子ども向けの本など、様々なレベルとジャンルを揃えている。また、図書館にも同様の本を置き、i-padでM-Readerを活用している。図書館での利用は、授業時間以外も可能にしてある。

以下の表1と2は、現在高校2年生の昨年度と今年度の学習状況である。クラス1と2はクラス替えはなく、クラス3～6はクラス替えがあった。しかし、クラスの習熟度は平均しているため、参考にできるであろう。平均総語数も増えており、学習が進んでいるということがわかる。

表 1. 昨年度の各クラスの平均総語数

クラス	人数	平均総語数
1	41	5395
2	40	13646
3	37	8881
4	36	5596
5	35	6339
6	35	9508

表 2. 今年度の各クラスの平均総語数

クラス	人数	平均総語数
1	39	14373
2	39	21292
3	37	16987
4	36	14923
5	35	14607
6	35	18742

3. 多読学習の効果

3.1 調査対象

本校の高校2年生（進学コース）に所属する183名を対象とする。この生徒らは入学した当初から多読学習を始め、現在も引き続き学習を続けている学年であり、約1年半の学習期間である。この生徒らをこれまで読んだ本の総語数を基準に5つのグループに分け、多読学習の効果の分析を行う。1つ目のグループは総語数4万語以上の生徒（10名）、2つ目のグループは3万語以上4万語未満の生徒（15名）、3つ目のグループは2万語以上3万語未満の生徒（34名）、4つ目のグループは1万語以上2万語未満の生徒（48名）、5つ目のグループは1万語未満の生徒（76名）である。

3.2 分析方法

GTEC の reading スコアを基に、効果の検証を行う。昨年度の4月に受けたスコアと、今年度の9月に受けたスコアとの比較である。

3.3 結果

以下の表に示す通り、どのクラスも1回目よりも2回目のスコアのほうが高かった。特に、グループ1はグループ2と比較すると、1回目はグループ1のほうが正解率は低かったが、2回目では同じ正解率であった。したがって、正解率の伸びは総語数の多いグループ1のほうが大きかった。また、グループ1から3までの正解率は10%以上伸びているのに対し、グループ4の伸びは6.1%で、グループ5は5.4%であった。したがって、総語数の多かったグループのほうが正解率の上昇が高かったため、多読を行うことはリーディングの向上につながると考えられる。

表3. 各グループの reading スコアの正解率 (%)

	1 回目	2 回目
1	65.4	79.3
2	68.1	79.3
3	63.5	73.5
4	55.6	61.7
5	48.1	53.5

3.4 考察

結果で記したように、多読を行うことがリーディングのスコアの上昇につながる可能性が示されたが、他の可能性は考えられないだろうか。例えば、多読を含む他の英語授業によるリーディングレベルの向上である。本校では、多読を含む英語コミュニケーションⅡと英語演習の授業を行っている。したがって、教科書を使った授業も展開している。その結果、英語力が向上していることも考えられる。そこで、GTECのlisteningスコアの比較を行ってみる。本校では、4技能の向上を目指しており、リスニングの指導も継続的に授業

で行っている。もし listening スコアも reading スコアと同様の結果であれば、普通の授業による影響が大きいと考えられる。以下に listening スコアの結果を示す。

表 4. 各グループの listening スコアの正解率 (%)

	1 回目	2 回目
1	64.2	69.1
2	65.0	71.5
3	61.5	70.7
4	56.7	62.0
5	50.0	55.1

各グループともに、1 回目よりも 2 回目のほうが正解率は高かった。しかしながら、グループ 1 の伸びは、4.9% で最も低かった。他のグループでも 10% を超える伸びはなかった。reading スコアの正解率と listening スコアの正解率を比較してみると、reading スコアは総語数が多いグループの方が良く、listening スコアは総語数とは関連が見られなかった。したがって、授業による英語力の向上のみならず、多読による影響があると考えられる。

4. まとめ

本校では、これからも多読学習を継続していくが、多読学習の効果というものもこれからも研究をしていく必要がある。高校生を対象にした多読の研究は少なく、さまざまな検証をすることが重要であろう。